






『メディアセンターだより』 発刊のごあいさつ

情報メディア教育研究センターでは、学内情報インフラの整備、本学構成員への計算機資源の提供、外国語教育・情報教育などさまざまな業務を行っています。このリーフレットでは、教育研究上有用と思われる情報メディアの活用法などについて情報を提供していきたいと思っています。


桃唐先生、レポートの山を前に海外逃亡を企てる！


 雉子：大変、今日成績の提出の締め切りなのに、桃唐先生の情報メディア特論の成績が出てないって事務から電話よ。


 猿田：えっ、今そこでリュックを背負った桃唐先生にすれ違ったよ。1週間ほどヨーロッパのケーキ屋さんめぐりで休暇を取るからって。


 犬神：みんな急げ、逃亡する前に桃唐先生を捕まえるんだ！成績を出していってもらわないと大変なことになる。


30分後・・・

 先生、駄目ですよ！ちゃんと期限までに成績を提出するのは大学の先生の神聖な義務ですよ。


 桃唐：私の「情報メディア特論」は人気があって受講者が多いからな。集計だけでも大変なんだ。それに実践的な課題をいろいろ出すから、採点に時間がかかるんだ。夏休み終わりまでにはちゃんとやるって。それに今回は、電子メールでレポートを出させたんだが、たくさん来る他のメールに混じってしまって、分離しないといけないし・・・


 つまりレポートの採点もまだ終わってないってことですな。


 実践的な課題って、ポスタープリンターでA0サイズの折り紙を折れっていうあれですか。あれでポスタープリンターの予約が一杯になって、国際会議用のポスターを作るユーザーが随分迷惑したんですよ。


 電子メールでレポートを出してもらうのは、10人程度の受講者ならいいんだけど、50人、100人と多くなってくるととても現実的ではないですね。それ専用のアカウントを持てばまだいいんですけど、毎日使っているアカウントの中に混じったら探すのは大変ですよ。サブジェクトのところに「課題1」というように書いてもらっても、「課題1」と書く人とかいろいろだし。u14xxxxが差出人だったら別の


場所にするように振り分ければいいかなと思っても、それ以外のプロバイダーから送ってくる学生もいるし。


 提出する学生から見れば、旅行先からだろうと深夜だろうと出せるメールや、ウェブに書き込む形式のレポートは悪くないんだけど。


 でもメールだとちゃんと届いたかどうか心配になるよ。


 そうらしくて、届いたかどうかの問い合わせメールがまたいっぱい来る。

 そういう問題はいろいろ検討されているらしくて、情報メディア教育研究センターのS先生が開発した「レポート提出システム」を使うと、ほぼ今まで挙がった問題は解決できるらしい。つけた点数の合計も出してくれるし。ウェブさえ読めれば、ウィーンでも採点できますよ。

 私、現代の情報経済の授業でつかったわ。公開されている他の人のレポートを見ると、こういう風に書くんだって分かって面白かった。

 えっ、他の人のレポートを見ることができるの？

 先生が指定したレポートが、〆切が終わった後に読めるようになってるの。こっちとしても、公開されちゃうかもしれないかと思うと、いい加減なものもは恥ずかしくて書けないわ。

 レポートは学生の間の差をつけることではなくて、力を付けてもらうのが目的なんだから、学生どうしが互いのレポートを見て勉強するのは悪くないと思っているけど。あれっ、桃唐先生がいないぞ、油断したら逃げられた！みんな手分けして探すんだ。

出演者のプロフィール Part 1



桃唐太郎(45)：鬼ヶ島大学メディアセンター教授。趣味はお菓子を食べること。専門分野は情報教育。以前出ていた「情報教育研究センターだより」がなくなって寂しく思っていた所、今回また出演がはりきっている。

『紙のレポート、学生番号を調べてチェックするの大変だし、回数が増えて管理が面倒だ。このご時世、何とか電子化できないものかなあ？』

『ちょっとしたレポートを電子メールで提出させたいのだけど、ただでさえ大量に来るメールに混じってしまい仕分けや整理が大変！』

などと思ったことはありませんか？

メディアセンターのレポート提出システムを使うと、レポート処理に伴って発生するさまざまな作業を簡単に行うことができるようになります。

このシステムは、WWW を利用した教育支援システムの一部として、メディアセンターの庄司文由教官によって開発されました。センター内部での一年間のテスト運用を経て、このたび全学の教育を対象に試験的に公開することになりました。

システムの概要

レポート提出システムはWWWをベースとしたシステムですので、ほとんど全ての作業はNetscape や Internet Explorer などのWWWブラウザ上で行います(図1①)。

教官は、WWWブラウザを通してレポートの出題と採点をを行います。学生はWWWブラウザまたは電子メールを使ってレポートの提出を行います。提出されたものはシステムが自動的に受け取ります。その際学生には電子メールで受領証が届きます。レポートにはメチを設定することができ、メチ後のレポート提出には制限が付けられます。

提出された個々のレポートに対して採点するだけでなく、コメントをつけることができます。学生はWWWブラウザ上で自分のレポートに対するコメントを読むことになります。学期の最後には何回か課したレポートの採点結果をまとめてダウンロードできます。ダウンロードしたデータは、お手元のパソコンのExcelなどで編集できる形式になっています。

利用の際に必要なもの、利用の流れ

レポート提出システムを利用するには、お手元にネットワークに接続されたパソコンと、WWWブラウザが必要になります。利用するWWWブラウザではJavaScriptが動作すること、SSLによる暗号化通信に対応していることが必要です。現在のメジャーなWWWブラウザならどれでも大丈夫なはずですが。

図1：システムの概要

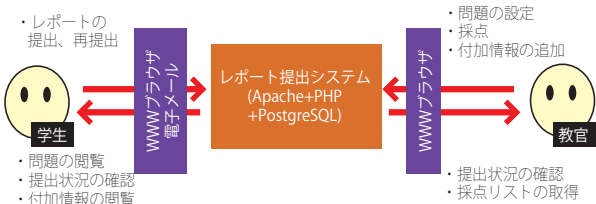
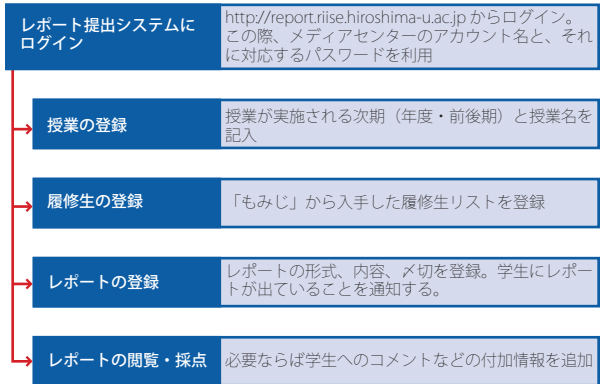


図2：教官の操作



また、システムを利用し始める際に利用者の認証を行います。この認証はメディアセンターが発行する個人アカウントAのアカウント名とパスワードを使います。通常は、メールアドレスXXXX@hiroshima-u.ac.jpのXXXXがアカウント名です。

実際の授業で利用する際には、誰がその授業を履修しているかという情報を登録する必要があります。受講生のリストは、広島大学学生情報システム「もみじ」からCSVファイルとしてダウンロードできますので、そのファイルをレポート提出システムに登録すればOKです。

利用する際の大まかな流れをまとめると、図2①のようになります。ここでは、レポート提出システムにログインし、いくつかの機能を利用するところをご紹介します。レポート提出システムのオンラインマニュアルが

<http://www.vu.hiroshima-u.ac.jp/report/man-kyokan/>に用意されていますので、詳細はそちらをご参照下さい。

システムにログインする

まずWWWブラウザで、

<http://report.rise.hiroshima-u.ac.jp>

にアクセスします。図3④のような画面が表示されます。左の方にある「ログイン」をクリックして、メディアセンターのアカウント名とパスワードでログインします。アカウント名とパスワードの確認がうまくいくと、画面の左側にメニューが表示されます。メニューの「レポート（教官用）」を選ぶと、レポートの登録・採点を行うページ(図4⑦)が開きます。



図 3

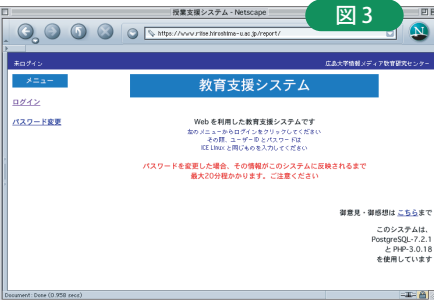


図 4

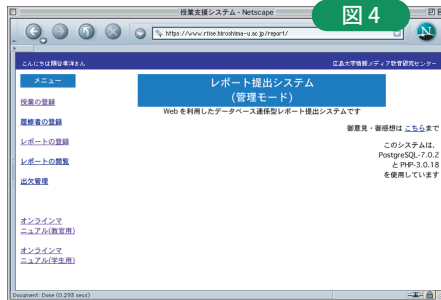


図 5

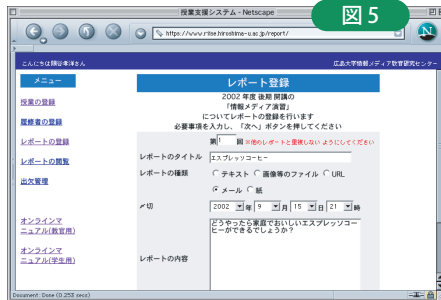


図 7



図 8

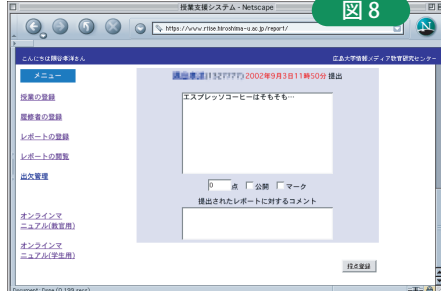


図 9



メール形式のレポートを設定してみる

ここで、学生が電子メールでレポートを提出できるようにするにはどのような作業が必要か概観してみましょう。

先程説明した、図4のメニューから「レポートの登録」を選び、授業を選択します。すると、図5のようなレポートの設定をする画面が表示されます。ここで、レポートのタイトル、レポートの種類、印刷日時、レポートの内容を設定します。電子メールでレポートを提出させる場合は「レポートの種類」に「メール」を選びます。必要な設定はこれでおしまいです。実行ボタンを押すと、そのレポートに固有のメールアドレスが表示されます。

学生がレポートを上記のメールアドレスに提出すると、システムからその学生宛に受領証(図6)が送信されます。教官は、学生が提出したレポートをメールで読むのではなく、WWWブラウザで閲覧します。提出されたレポートは図7の

ように一覧表示されますから、どの学生が提出しているか一目瞭然ですね。点数をつけるのも同様にWWWブラウザ上で行ないます(図8)。

その他のレポート形式と成績表

前項で紹介した電子メール形式のレポートの他に、レポート提出システムでは左の囲み表にあるような形式のレポートを取り扱うことができます。同じ授業に対して何回かレポートを課して、採点をしていくと図9のようにレポートに関する成績一覧表ができあがります。この情報は CSV 形式でダウンロードし、エクセルなどの表計算ソフトで処理することができます。

終わりに

学生がレポートを提出したかどうか、従来では名簿とつきあわせて一つずつ確認していく必要がありましたが、このシステムでは自動的に処理されます。何人提出していて、提出していないのは誰かということがどの段階でもすぐに確認できます。

学生から見ても、このシステムを使ったレポートはネットワークに接続されたコンピュータさえあれば、いつでもどこからでも提出することができるというメリットがあります。また、レポートとして課されている内容がシステムから提示されますので、学生はそれをいつでも確認することができ、細かい条件や参考資料なども間違いなく伝えることが可能です。

冒頭に書いたようにまだ試験的な公開ですが、充分実用的な内容になっていると思います。本稿を読まれて興味をお持ちの方は、是非メディアセンターのレポート提出システムをおためし下さい。

レポート提出システムで扱えるレポート形式

● テキスト

学生はWWWブラウザ上のテキストフィールドにレポート内容を記入します。教官はWWWブラウザ上でその内容を直接閲覧します。

● 画像などのファイル

学生はパソコンから、画像やワープロ書類などのファイルをシステムにアップロードします。教官はJPEG 画像などブラウザで直接表示できるものはその場で確認できますが、それ以外のものはパソコンにダウンロードして内容を見ることになります。

● URL

学生はWWWページを作成し、そのURLをシステムに記入します。教官はハイパーリンクとして表示されたWWWページを閲覧し、評価します。

● メール

学生は特定のメールアドレスにメールを送ることによりレポートを提出します。教官はWWWブラウザ上でその内容を直接閲覧します。

● 紙

学生は紙でレポートを提出します。教官はその評価やコメントをシステムを使って入力します。

メディアセンターではレポート提出システムの利用方法の説明会を予定しています。第一回は 2002 年 10 月 21 日午後 5:00 から行います。

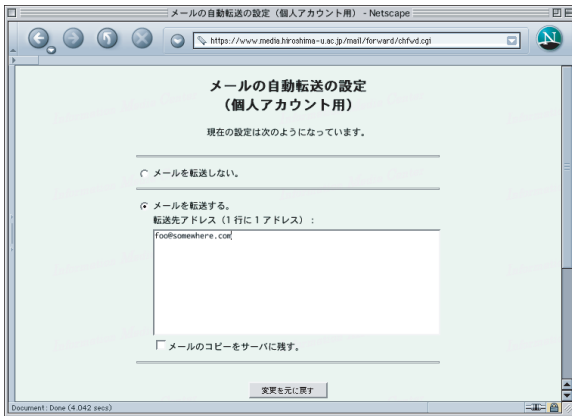
準備室だより～最近の質問から

先日センターの端末室利用者を対象に行った調査では、電子メールを使うのにパソコンよりも携帯/PHSを主に使うと答えた学生さんが7割もいました。準備室にも、センターのメールアドレス宛の電子メールを携帯/PHSに転送したいという質問が多くあります。

センターのファイルサーバ上に設定ファイルを置いておくと、電子メールを別のアドレスに自動転送することができます。2002年の7月から、この作業がWWWブラウザ上で簡単にできるようになりました。

<http://www.media.hiroshima-u.ac.jp/mail/forward/>にアクセスをして「Web版(個人アカウント用)」をクリック、次にセンターのアカウント名とパスワードで本人確認をすると、下図のような画面になります。

メール転送の設定をするには、「メールを転送する」を



選択して、その下の文字入力領域に転送先のアドレスを書くだけです。複数のアドレスに同時に転送したい場合は一つのアドレスを書いた後に改行キーを押して並べて書きましょう。「メールのコピーをサーバに残す」にチェックをつけておくと、転送後メールサーバにもメッセージが残っている状態になりますので、センターの端末室でも同じメールを読むことができます。

特定の差出人からのメールだけを転送するとか、もう少し複雑な設定も可能ですが、残念ながらそれはWWWブラウザ上ではできません。方法を知りたい方はセンターの質問コーナー

<http://www.media.hiroshima-u.ac.jp/helpdesk>で問い合わせてください。



センターからのお知らせ INFORMATION

- レポート提出システムの説明会を開催します。
日時：2002年10月21日17:00～18:00
- データ解析ビジュアライゼーションソフトウェアIDLの利用サービスを開始しました。
- メールサーバhiroshima-u.ac.jpでのウィルスチェックに新しい機能が追加されました

詳細はセンターのホームページをご覧ください。
<http://www.media.hiroshima-u.ac.jp/>

COLUMN

E-MAIL FROM...

今回はMITからのお便りです

ボストンのマサチューセッツ工科大学(MIT)へ来ています。出発前に、ボストンへ行くのですが何をすべきですかと、米国で出身のセンターのL先生に伺ったら、

- (1) ブスターを食べる
- (2) 美術館に行く
- (3) 時間があったら歴史的な場所かな。中国や日本に比べれば、アメリカの歴史は短いからね。

ということでしたので、(1)を実行しました。巨大かつあまりに美味だったので毎晩実行しようかと思っています。(2)は明日の予定。あっ、もちろん仕事もしています。会議が行われている Stratton Student Cen-

ter は、あまりきれいではありませんが、良く出ています。最上階に広島大学の西図書館三階のオープンスペースのような端末がならんだ部屋があります。学生でいつも一杯です。我々会議参加者も、部屋の鍵の番号と、アカウントを貰ってすぐ使えます。(システムはLinuxでした)私は24時ごろまでしか使いませんでした、24時間使えるようです。飲食は出来ないようでしたが、同じ建物には食堂と夜遅くまであいているスーパーマーケットがあるので、疲れたときはちょっとコーヒーを飲んでリラックスしてまた戻ってきて仕事を続けられます。

全体会議が行われている Kresge Auditorium は、無線ランが使えました。こちらは特に手続きも必要なく、誰でも使えます。とても便利でこれがこれからの姿かと思いましたが、見ているとつまらない講演の時は、すぐみんなPCを開けてメールを始めたりするので、それはそれで難しいところもあるなあと思いました。まあ、日本の先生はつまらない授業をやるとすぐみんなが携帯でメールをやりはじめるので、そういう意味では鍛えられているかもしれませんね。